

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00315

研究課題名（和文）江戸文学における白話訳についての研究

研究課題名（英文）A Study on the Translation of Chinese Literature into Edo Literature

研究代表者

閻 小妹 (yan, xiaomei)

信州大学・全学教育センター・特任教授

研究者番号：70213585

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：山東京伝の『忠臣水滸伝』についてはこれまで多くの先行研究によって『水滸伝』原本、和刻本、通俗本及び唐話辞書類など、いわゆる水滸伝ものとの関係が明らかにされてきた。本研究では、『仮名手本忠臣蔵』の白話訳『忠臣蔵演義』を京伝が参照して書き進めたことを明らかにし、『忠臣水滸伝』の成立にそれが直接関与したことを検証した。京伝が『忠臣水滸伝』を構想するにあたって、浄瑠璃の白話訳『忠臣蔵演義』を入手したことにより、日本の浄瑠璃と中国の白話章回小説『水滸伝』という異質なものを文体的にも内容的にも無理なく結合することが可能になったと言えよう。さらに京伝が唐話辞書『中夏俗語数』を利用したことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

白話訳された『忠臣蔵演義』を『忠臣水滸伝』の中で再度和訳しつつ利用するという京伝の手法は、例の見ない新奇のものであった。京伝が齎したのは、一つは長編小説の枠組みであり、もう一つは新しい文体であろう。日本の浄瑠璃作品を中国白話に訳す、という行為自体の意味について、従来、長崎に来航する清人のために作られたと言われてきた。ただ写本の『忠臣蔵演義』に訓点を付し、漢詩を追加するなどしたうえで、清人に仮託して刊行された『忠臣蔵』や、その改題再刊本『海外奇談』、さらには『日本忠臣蔵』などと改題を重ねながら、明治に入っても、続々と刊行されていた事情をふまえると、日本人作白話小説の意味を再検討する必要がある。

研究成果の概要（英文）：With regard to the Shandong Kyoden wrote Chushinsuikoden there have been many prior studies to date showing its relationship to the so-called Shuihuzhuan of the original text, and to the carved, popularized, and Tanghua dictionaries. The present study shows that the Kyoden was written with reference to the vernacular translation of the Kana tehon Chushingura, the Chushingura-engi and verifies that the Chushingura-engi, was directly involved in the establishment of the Chushinsuikoden. At the time of Kyoden's conceptualization of the Chushinsuikoden, he had access to ruri's vernacular translation of the Chushingura-engi which is why it can be said that the two heterogeneous texts, the Japanese ruri and the Chinese vernacular novel Shuihuzhuan were able to combine without reluctance, both in terms of style and content. And it is also clear that Kyoden also utilized the Tanghua dictionary, Chuka zokugoso.

研究分野：近世文学

キーワード：日本人作白話小説 白話辞書 忠臣蔵 忠臣蔵演義 水滸伝と読本 江戸読本 山東京伝 海外奇譚

1. 研究開始当初の背景

従来、浄瑠璃や軍記物語などが白話訳されたのは来日清人のためだなどと言われてきた。現在早稲田大学所蔵の唯一の写本『忠臣蔵演義』が浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』を白話訳したものである。この写本をもとにして『忠臣蔵』と題する刊本が文化12年(1815年)に出され、さらに『海外奇談』、『日本忠臣蔵』などと改題されて版を重ねたと言われている。ただ、今まで写本『忠臣蔵演義』の成立年は未詳である。一方、寛政11年(1799年)に刊行された山東京伝の『忠臣水滸伝』は、当時流行の中国長編白話小説『水滸伝』と、寛延元年の初演以来浄瑠璃・歌舞伎等で繰り返し上演され、演劇以外にもあまたの影響を与えてきた『仮名手本忠臣蔵』とを撮合して制作されたものである。従来『水滸伝』と『忠臣水滸伝』との関係については、先学による詳細な比較研究が備わるが、忠臣蔵に関しては、浄瑠璃本以外の典拠について言及されることはなかった。しかし、本文では明らかに、浄瑠璃に拠ったと思われる箇所にもきわめて濃厚な白話的文体を採用されており、京伝が典拠として利用したものが存在した可能性を思わせる。その際、唐話辞書類とくに『俗語解』、『中夏俗語藪』、『小説字彙』の利用も考えられる。このうち『俗語解』は沢田一斎の撰に擬せられ、『西廂記註』、『水滸伝』、『金瓶梅』、『杜騙新書』など元明の戯曲小説から語彙を収集しており、森嶋中良の改編本など様々な形で明治時代まで受け継がれてゆく。また『中夏俗語藪』は先行する唐話辞書からも語彙を吸収しつつ父子二代にわたる研鑽の成果として編まれたもので、滝沢馬琴の紹介によって知られているが、山東京伝が『忠臣水滸伝』の創作にあたって使用していたと考えられる。ただ、どの辞書が最も使われたか、その頻度などは統計的に知られてない。

2. 研究の目的

浄瑠璃や軍記物語などが、唐話を用いた白話小説として漢訳されたのはなぜか。これらの白話文の書き手や読み手はどのような人々だったのか。山東京伝が江戸長編小説『忠臣水滸伝』を創作するにあたり、一度唐通事に『仮名手本忠臣蔵』を漢訳された『忠臣蔵演義』をもう一度和訳するという複雑な作業をしたと考えられる。そこに唐話辞書はどんな役割を果たしたのか。こうした問いに答えるべく、山東京伝の『忠臣水滸伝』における白話訳の問題について調査分析するのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

軍記物語に比べて研究が遅れている浄瑠璃の白話訳作品に重点を置く。浄瑠璃を白話訳したと考えられる作品のうち、『阿姑麻伝』、『海外奇談』、『本朝小説』の日本および中国各地での所蔵状況を確認する。唐話辞書類についてとくに『俗語解』、『中夏俗語藪』、『小説字彙』の利用状況を調べる。

4. 研究成果

(1)研究分担者は「『俗語解』の論点」(『信州大学総合人間科学研究』第13号、2019年)で、先行研究や写本系統の整理や分析を行なった。そして『俗語解』諸本のうち岩瀬本と立正本との類似については、立正本の調査をした。『俗語解』諸本のうち岩瀬本と立正本との類似について調査し、その結果を「『俗語解』の岩瀬本と立正本」という題の論文を『信州大学総合人間科学研究』第14号(2020年)で発表した。

(2)研究分担者と共同で論文「『杜騙新書』の国立国会図書館蔵抄本について」を大学紀要に掲載した。明の短編小説集『杜騙新書』は、かつて日本でも愛読され、抄本(写本・鈔本)もいくつか現存している。そのうち日本の国立国会図書館蔵抄本は、複数の手による書き込みが認められるなど、江戸時代における『杜騙新書』の受容や読解について、その実態の一端を反映する好個の資料である。論文では、江戸時代の和刻本にも収録された全17話に絞って、全体的な特徴を整理しながら、書き込みの具体相を検討した。

(3)研究代表者は「『忠臣水滸伝』の成立—『忠臣蔵演義』の介在を中心に—」の題で論文を完成した。山東京伝の『忠臣水滸伝』(寛政11年刊行)は、当時流行の中国長編白話小説『水滸伝』と、寛延元年の初演以来浄瑠璃・歌舞伎等で繰り返し上演され、演劇以外にもあまたの影響を与えてきた『仮名手本忠臣蔵』とを撮合して制作されたものである。『水滸伝』と本作との関係については、先学による詳細な比較研究が備わるが忠臣蔵に関しては、浄瑠璃本以外の典拠について言及されることはなかった。しかし、本文では明らかに浄瑠璃に拠ったと思われ

る箇所にもきわめて濃厚な白話的文体が採用されており、京伝が典拠として利用したものが存在した可能性を思わせる。論文では、『仮名手本忠臣蔵』の白話訳である『忠臣蔵演義』(早稲田大学蔵写本)は『忠臣水滸伝』の典拠の一つであることを指摘し、その特徴について具体的に説明した。さらに『忠臣水滸伝』の本文と比較することにより、本作を構想するにあたって、京伝がいかに『忠臣蔵演義』を利用したかを検証した。結局、京伝は浄瑠璃本の白話訳『忠臣蔵演義』を入手したことにより、はじめて日本の浄瑠璃と中国の白話章回小説『水滸伝』という異質なものを文体的にも内容的にも無理なく結合することが可能になったとの結論になった。

(4)研究代表者は『忠臣水滸伝』の本文と比較することにより、『忠臣蔵演義』の重要性を検証し、そのうえ唐話辞書『中夏俗語叢』(天明2年刊行)の利用を明らかにした。以上の調査結果を2022年7月に国際日本文化研究センターで「唐通事による『忠臣蔵』の白話訳の利用と展開」の題として口頭発表をし、さらに2023年12月台湾中央研究院で中国語で口頭発表した内容を論文にした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 閻 小妹	4. 巻 4
2. 論文標題 日本近代知識の伝播	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東亜学	6. 最初と最後の頁 319-335
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 閻 小妹	4. 巻 13
2. 論文標題 江戸小説《忠臣水滸傳》的創作方法 - 如何妙用白話翻譯抄本《忠臣蔵演義》 -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『思想史』	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 閻 小妹・上條 和恵・加藤 裕理	4. 巻 16号
2. 論文標題 『戸籍簿』(3)(原題『戸口本』)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 信州大学総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 286-295
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 氏岡 真士・閻 小妹	4. 巻 16号
2. 論文標題 続『杜騙新書』の国立国会図書館蔵抄本について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 信州大学総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 161-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 著者:史 傑鵬 翻訳:閻 小妹・上條 和恵・加藤 裕理	4. 巻 16号
2. 論文標題 翻訳『戸籍簿』(2)(原題『戸口本』)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 信州大学総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 286-295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 著者:曹 虹 翻訳:閻小妹、合山林太郎、田中仁、平林香織	4. 巻 7月号
2. 論文標題 「東アジアにおける女性と隠逸について 朝鮮の女性詩人徐氏の「次帰去来辞」を中心にー」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 22-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 氏岡真士・閻小妹	4. 巻 15号
2. 論文標題 『杜騙新書』の国立国会図書館蔵抄本について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 信州大学総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 146-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 閻小妹・上條和恵	4. 巻 15号
2. 論文標題 『戸籍簿』(1)(原題『戸口本』)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 信州大学総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 203-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 氏岡真士・閻小妹	4. 巻 14号
2. 論文標題 『俗語解』の岩瀬本と立正本	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 141～149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 氏岡真士	4. 巻 76
2. 論文標題 『俗語解』と『水滸伝』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 汲古	6. 最初と最後の頁 25～30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 氏岡真士	4. 巻 7-2
2. 論文標題 《忠義セン図》的足本與残本	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 信州大学人文科学論集	6. 最初と最後の頁 159～171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木越俊介	4. 巻 3
2. 論文標題 易占家と読本—松井羅洲『真実玉英』の世界像—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近世文学史研究	6. 最初と最後の頁 80-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 氏岡真士・閻小妹	4. 巻 13号
2. 論文標題 『俗語解』の論点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 信州大学総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 162 - 170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木越俊介	4. 巻 7巻
2. 論文標題 寛政・享和期における知と奇の位相－諸国奇談と戯作の虚実－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 氏岡真士	4. 巻 通巻53
2. 論文標題 《後水滸傳》的構思	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 信州大学人文科学論集	6. 最初と最後の頁 131－141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 氏岡真士	4. 巻 2018-2
2. 論文標題 談上海図書館所蔵容与堂本《水滸》	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文学研究	6. 最初と最後の頁 84-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 閻小妹・姚依然	4. 卷 13号
2. 論文標題 孫文綱領的東洋性質（翻譯）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 信州大学総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 180-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 閻小妹
2. 発表標題 江戸小説《忠臣水滸傳》的創作方法 —如何妙用白話翻譯抄本《忠臣蔵演義》—
3. 学会等名 中国上海財經大學「近代日本文本の流通と影響」研究会(国際学会)（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 閻小妹
2. 発表標題 《忠臣水滸傳》的成立與白話翻譯小説《忠臣蔵演義》
3. 学会等名 台湾中央研究院近代史研究所「近代中日思想交流的脈絡連鎖」國際學術研討會台湾中央研究院近代史研究所「近代中日思想交流的脈絡連鎖」國際學術研討會(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 閻小妹
2. 発表標題 明清才子佳人小説中的女子同性戀
3. 学会等名 東京大學 東洋文化研究所「東亞文化交流視域下的思想、文化與宗教」國際學術研討會(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 閻小妹
2. 発表標題 人鬼相戀又何妨? —怪談經典<牡丹燈記>與《雨月物語》—
3. 学会等名 中国清華大学「東亞文化講座」(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 閻小妹
2. 発表標題 唐通事による『忠臣蔵』の白話訳の利用と展開
3. 学会等名 日文研国際共同研究会(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 閻小妹
2. 発表標題 《剪燈新話》何以風靡東亞
3. 学会等名 国際学術討論会「中国文学と文化研究モデル新視点」(上海復旦大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 閻小妹
2. 発表標題 試論《忠臣蔵演義》在文學史上的意義 ---日人翻譯創作的白話章回小説--
3. 学会等名 近代日本漢文文献と史学研究ワークショップ(上海復旦大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 大内氏歴史文化研究会、伊藤幸司、木越俊介他全19名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 418
3. 書名 室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる	

1. 著者名 木越治、勝又基、木越俊介、間小妹ほか、全26名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 488
3. 書名 怪異を読む・書く	

1. 著者名 著者岡倉天心；訳者間小妹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中国商務印書館	5. 総ページ数 126
3. 書名 東洋的理想（東洋の理想）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	氏岡 真士 (ujioka sinnsi) (60303484)	信州大学・学術研究院人文科学系・教授 (13601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	木越 俊介 (kigosi syunnsuke) (80360056)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関